

## 小矢部川の生物調査にあたって

松村 勉

富山県立志貴野高等学校 〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7

### An Outline on the Survey of Oyabe River and Its Watershed, Nanto-shi, Toyama Prefecture, Central Japan

Tsutomu Matsumura

Sikino High School, 1-7, Suehiro-machi, Takaoka-shi, Toyama 933-0023, Japan

富山県生物学会では県内の生物相を明らかにするとともに会員相互の連携と研鑽を促すことを目的として、2006年(平成18年)より共同で生物調査を実施してきた。県内を新川、富山、高岡、砺波の4地区に分け、順に比較的小規模の河川流域を中心とした地域を指定して実施している。これまでの13回調査地域は、第1回2006年南砺市平村猫池、第2回2007年魚津市角川、第3回2008年氷見市余川川、第4回2009年立山町栃津川、第5回2010年小矢部市洪江川、第6回2011年入善町舟川、第7回2012年氷見市仏生寺川、第8回2013年富山市黒川、第9回2014年南砺市山田川、第10回2015年射水市下条川、第11回2016年上市町郷川、第12回2017年氷見市泉川、第13回2018年富山市野積川である。

本年度は南砺市を流れる小矢部川を選定した。旧福野町上川崎の川崎橋(標高50m)より上流を調査範囲とした(図1)。

小矢部川は、流長約68km、流域面積667km<sup>2</sup>の一級河川である。富山県と石川県境の大門山(だいもんざん、標高1,572m)を源流として、急峻な山岳地帯を約20km流下し、平野部に出たところで河岸段丘をつくり、その後は県内では珍しい緩流河川となり、蛇行しながら高岡市伏木で富山湾に注ぐ(図2)。多くの支流があり、右岸側には南砺市上川崎で合流する山田川(2014年調査)、左岸側には小矢部市綾子で合流する洪江川(2010年調査)などがある。全流域面積のうち山地等が約51%、水田や畑地等の農地が約40%、宅地等の市街地が約9%となっている(国土交通省河川局, 2007)。

小矢部川流域の西方に位置する医王山はブナ林などの豊かな自然があり、1975年(昭和50年)県立自然公園に指定された。

明治後期に鉄道が敷かれるまでは、小矢部川は水運に利用され、支流の山田川、洪江川も小舟が輸送手段となっていた(角川日本地名大辞典編纂委員会, 1979)。

小矢部川の下流域は勾配が低いので、たびたび氾濫して甚大な被害が出た。1954年農林省の洪水調査により、洪水調節に電気関係を付随した「小矢部川上流地域総合計画」が策定され、上流の下刀利、刀利、滝谷の3集落が移転後、1961年にダム建設を開始し1967年に刀利ダムは完成した。刀利ダム上には県道金沢湯涌福光線(塩硝街道)が通り、湯涌温泉や金沢市内へも行ける。ダムの右岸側には福光上平線が通っているが、災害のため、今年度は長瀬峡(中河内)～ブナオ峠間は通行止めになっていた。

調査地域の気候は、年間降水量2709mm、平均気温10.5℃、最大積雪61~166cmである(気象庁, 2002)。

今回の調査項目は植物、魚類、底生無脊椎動物、両生・爬虫類、鳥類、哺乳類である。合同調査日は2019年6月30日と9月29日としたが、調査日の追加や調査地点・方法はそれぞれのグループに任せた。

最後に今回の調査にご協力いただいた地元の皆様に厚くお礼を申し上げます。

(富山県生物学会副会長・企画幹事長)

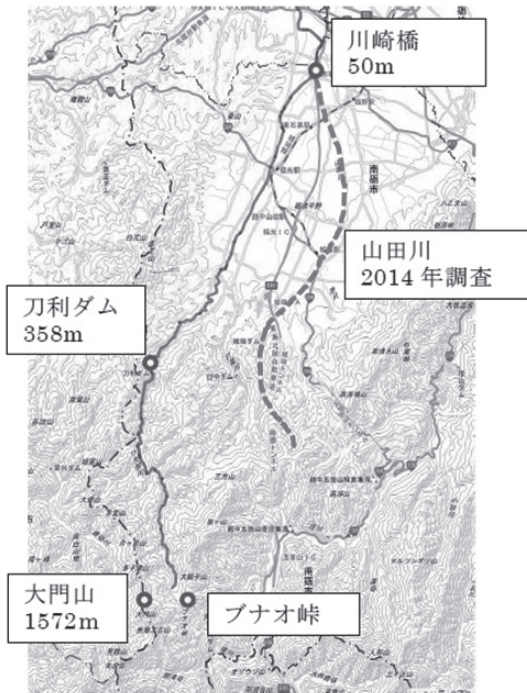


図1 調査区域

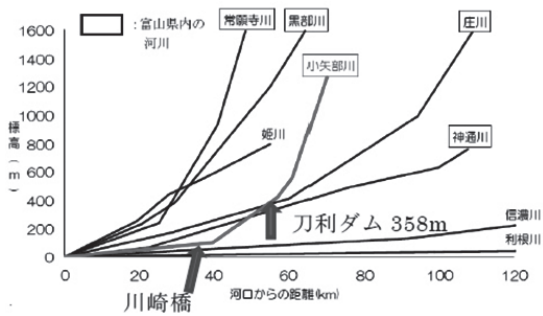


図2 河床勾配図 (「小矢部川水系の流域及び河川の概況」より)



写真1 川崎橋



写真2 刀利ダム



写真3 大門山 (1572m) 山頂



写真4 医王山から砺波平野を望む

### 引用文献

- 角川日本地名大辞典編纂委員会. 1979. 角川日本地名大辞典16 富山県. p221. 東京
- 気象庁. 2002. メッシュ気候値2000. 気象業務センター. 東京
- 国土交通省河川局. 2007. 小矢部川水系の流域及び河川の概況